



兵庫県31年度当初予算案

農林水産関係8222億円

法人化促進総合対策事業などを拡充

兵庫県は2月15日、平成31年度当初予算案を発表した。

一般会計の総額は前年度当初予算比2.5割増の1兆9354億円。農林水産費は、前年度予算比7.6割増の884億6100万円となっている。

収益性の高い施設園芸の拡大や農地の集積・集約化による経営規模拡大、生産コスト低減などにより、力強い農業構造の確立や生産性・収益性の向上を図るとした。

そのほかの主な事業として法人化促進総合対策事業に1億116万円、ひょうごの次世代施設園芸モデル普及拡大支援事業に1億8339万円、ひょうご施設園芸産地の競争力強化に2億400万円、農業基盤の整備推進に31億8440万円、農地中間管理機構による担い手への農地

の集積・集約に1億6625万円を計上した。

主な新規・拡充事業は次のとおり。(カッコ内は新規または拡充の別・予算額)

- ① 基幹的地域農業法人の確立支援(新規・450万円)
- 集落調整や経営計画の策定を継続的に支援する特命チームを設置
- ② ひょうごの野菜作導入促進事業(新規・500万円)
- 水稲中心から野菜作を組み入れた経営転換を図る生産者団体等を支援
- ③ 新規就農者の確保・育成加速化(拡充・1900万円)
- 県外からの就農希望者確保のための情報提供、新規就農希望者向けのインターンシップの実施、民間農業情報総合サイトとの連携
- ④ 農業人材の確保(拡充・5

発行所

一般社団法人 兵庫県農業会議 神戸市中央区下山手通4丁目15-3 兵庫県農業共済会館内

億850万円)

- ⑤ 地域農地管理事業(拡充・8180万円)
- 優良農地における不耕作農地の利用促進と中山間地等の農地の有効活用を進める新しい仕組みを構築
- ⑥ 「農」イノベーションひょうごの推進(拡充・1億3204万円)
- 農林漁業者と様々な分野の事業者、研究機関との交流連携を通じ、新技術・新商品等の開発を支援
- ⑦ 地域楽農生活センター開設支援(新規・1215万円)
- 地域における楽農生活の拠点(地域楽農生活センター)整備に取り組む市町等を補助
- ⑧ 田舎暮らし楽農生活応援事業の実施(拡充・1515万円)
- 地域創生を推進するため、二地域居住を促進するとともに、「農」に親しむ機会を創出し、持続可能なバイオマス資源活用推進事業(新規・2227万円)
- 民間事業者等によるバイオマス活用プロジェクトの実現に必要な調査・設計、実証等の取り組みを支援

主な内容

- ◆ MBA塾生が商談会参加 商品PRを実施 ……二
- ◆ 農産漁村の未来を変える 女性農業者が討論 ……二
- ◆ 農大生と農業法人経営者との意見交換会 開催 ……三
- ◆ 輝く女性になること！女性委員交流研修会開催 ……四

備の実施

- ⑦ 地域楽農生活センター開設支援(新規・1215万円)
- 地域における楽農生活の拠点(地域楽農生活センター)整備に取り組む市町等を補助
- ⑧ 田舎暮らし楽農生活応援事業の実施(拡充・1515万円)
- 地域創生を推進するため、二地域居住を促進するとともに、「農」に親しむ機会を創出し、持続可能なバイオマス資源活用推進事業(新規・2227万円)
- 民間事業者等によるバイオマス活用プロジェクトの実現に必要な調査・設計、実証等の取り組みを支援

第2回農地利用調整推進会議 開催

県農業会議は2月12日、神戸市の農業共済会館で「平成30年度第2回農地利用調整等推進会議」を開き、市町農業

委員会、農林振興事務所の担当者ら44人が参加した。農地中間管理事業の5年後見直しにおいて、人・農地プランの重要性が強調され、農業委員会の積極的な関与が法令上明記されることやプランの実質化の要件、それに伴う農地利用最適化交付金の変更点などについて説明があった。

人・農地プランの実質化については、農地の利用現況図の添付が必須とされ、所有者の年代構成や後継者の有無などの情報を地図に落とし込むこととされた。

農地利用最適化交付金の変更点は、活動実績割の金額について、農地の集積・集約化の活動が3割以上を占めている場合が月6千円で、そのうち人・農地プランの実質化の活動が3割以上を占めている場合は、同7千円に引き上げられた。一方で、農地の集積・集約化の活動が3割未満の場合、同5千円に引き下げられた。

成果実績割の算定においては、人・農地プランの集積予定面積も実績に加えることのほか、集約化や中山間地の成果をより高く評価する仕組みが検討されている。

MBA塾生が商談会 参加 商品PRを実践

ひょうご農業MBA塾（県農業会議主催）の受講生9人は2月20日と21日、アジア太平洋トレードセンターで開催された「アグリフードEXPO大阪2019」にブースを出展した。

受講生は、米（アイガモ農法、玄米）、黒大豆、小豆、黒毛和牛、アイガモ肉、ベビーリーフ、薬物野菜などを展示。黒毛和牛やアイガモ肉、

米を来場者に試食してもらいなど、生産物のPRをした。試食した来場者からは「とつても柔らかくジューシーなお肉」、「アイガモ肉は珍しい」、「玄米は食べやすく、アイガモ米も美味しかった」などの声が聞かれた。

受講生は、流通業者や実需者がどのような農畜産物を求めているのかをつかみ、今後の農業経営に役立てるため、

来場者の意見を熱心に聞いていた。ブースには両日で263人が訪れ、そのうち31社について具体的な商談が期待されることである。



来場者に商品を紹介する塾生ら

農山漁村の未来を変える

女性農業者が討論

ひょうご農業女子交流会

県農業会議は神戸市の神戸新聞松方ホールで2月7日、ひょうご農業女子交流会を開いた。

ひょうごの農とくらし研究発表大会と共催したもので、「女性が変わる！農業・農山漁村の未来に向けて提言」をテーマに、リレートークなど

ながらパンなどの加工品を販売する大封香代子さんの進行のもと、パネリストの浅川元子さん（神戸市）と山口恵子さん（稲美町）、荒木奈見さん（養父市）、澤村香里さん（篠山市）、伊吹彩子さん（南あわじ市）が、自身の農業経営やそれぞ

養父市で繁殖和牛を経営し

浅川さんは「視察などの勉

強会はとても役に立つ。自分

は疑問に思っていないくても、メンバーから出た質問に学ぶことが多い」とグループ活動の重要性を話し、伊吹さんは「女性が研修や視察で家を空けることは家族の理解や協力が必要だが、これからは女性も外で学ぶべき」と話した。

最後に進行役の大封さんが、大切なのは女性農業者の存在の見える化、発信力を高めること、ゆるやかなネットワークでつながりを持つことだとまとめた。

春の農作業安全確認運動期間

一人一人の安全意識の向上で事故防止
3月1日から5月31日は

次世代人材投資資金の見直しについて

説明会開く

兵庫県

県は神戸市で2月12日、農業次世代人材投資資金（準備型）の見直しについての説明会を開き、認定研修機関や関係機関の職員など26人が参加した。

新規加入実績

県農業経営課より、平成31年度からの農業次世代人材投資事業について、準備型・経営開始型において①年齢要件の緩和（支援対象者の年齢要件を原則45歳から50歳に引き上げる）、②農地要件の緩和（親族の農地が過半で就農する場合、利用権設定でも可とする）、③準備型について先進農家で研修する交付対象者については、農の雇用事業を活用するなどの見直し内容が説明された。

兵庫県の農業者年金1月新規加入実績は次のとおり。
（農業者年金基金1月受付処理分）
淡路市 2人、三木市 1人

全国農業図書新刊紹介

【いまこそ、農地をいかしてめざそう地域の活性化】
（30-25）、A5版100頁、726円

【農地パトロールと利用意向調査で進める遊休農地解消と担い手への農地集積】（30-34）、A4版4頁、45円

県農業会議からは、次年度

農大生と農業法人経営者との意見交換会 開催

県農業法人協会

県農業法人協会（八木隆博会長）は2月18日、加西市の県立農業大学校で農大生と農業法人経営者による意見交換会を開いた。

従業員の確保が大きな課題となつている農業法人側が、学生に雇用就農という道もあることを示すために昨年から開いているもの。

この日は、深山農園（相生市・椎茸）、（株）玄米家（加東市・水稲）、（株）LEAD（加古川市・野菜）、（株）丹波篠山大内農場（篠山市・水稲）が学生17人に、それぞれの経営概要について説明した。また、今の従業員がしている仕事、経営者が望んでいる人材、農大卒業までに習得して

おけば役に立つ資格や技術などについて話した。その後、経営者らは4つのグループに分かれ、学生の質問に直接答える意見交換会を実施した。意見交換を終えた学生からは「経営に対する姿勢やそれぞれの考えが直接聞けて良かった」、「知識や技術を身につけたいので農業法人に就職したい」などの意見があった。



小人数の学生に説明する（株）LEADの都倉さん

農地法

Q & A

農用地利用相談所

Q2 法人（株式会社、JA、社会福祉法人、NPO法人等）は農地を取得できますか。

A2 ○法人は原則、農地の所有権を取得することはできません。

○農地所有資格法人の要件を具備できれば、貸借のほか所有権の取得も可能となります。農地所有資格法人の要件は、法第2条第3項に規定されています。

○社会福祉法人、医療法人、NPO法人は、その業務運営の一環として農業指導等を行う目的であれば、

所有権取得も可能ですが、許可にあたっては定款や事業計画等による確認が必要です。

○JAも、右のほか農業経営目的であれば所有権を取得することが可能です。

○なお、解除条件付きの貸借であれば権利設定は比較的容易です。

Q3 市町が寄付を受け、権利取得することはできませんか。また、農地を学校の駐車場にする場合や、市民農園にする場合はどうですか。

A3 ○市町への寄付行為

も、第3条許可が必要です。政令第2条第1項第1号口により、試験田、採種ほ等、公用または公共用に供する場合に許可ができませんが、それ以外では許可できます。

○なお、法第5条による転用行為を伴う権利移動では、許可される場合があります。

○市町が寄付を受けて、市民農園整備促進法に基づき一定の要件を満たす市民農園として貸し出す場合は、許可が不要とされる特例があります。

県稲作経営者会議

総会・研究会 開催

農福連携を学ぶ

県稲作経営者会議（堀謙吾会長、事務局・県農業会議）は2月25日、神戸市の農業共同会館で平成31年通常総会と稲作経営者研究会を開き、会員ら59人が参加した。

総会では、平成30年事業報告・収支決算の報告、平成31年事業計画・収支予算の設定などを行った。

研究会では、静岡県浜松市で芽ネギやチンゲンサイを栽培する京丸園（株）の鈴木厚志代表取締役が、同社で取り組むユニバーサル農業について講

演した。

ユニバーサル農業は、高齢者や障がい者が農業で社会参画するもの。同社では平成9年から障がいを持った人を雇用し始め、現在は25人が活躍している。鈴木さんは「障がい者に作業指示をするときは、抽象的な言葉を使わず、工程を分解してわかりやすく説明する。このことは、従業員全体の作業効率向上にもつながる」とアドバイスした。

同会は、経営面積5畝以上の大規模稲作経営者89人で組織しており、新規会員も募集している。問い合わせと加入申込は事務局（県農業会議078・391・1221）まで。

全国農業新聞・2月増部

全国農業新聞の普及について、2月に増部したのは2市町。（一）内は増加部数。①加西市（一）、②加東市（一）



輝く女性になること！

女性委員交流研修会開催

ひょうご農業委員会女性ネットワーク（篠山市・大西富美子会長）と県農業会議は2月28日、神戸市で農業委員会女性委員交流研修会を開き、農業委員と推進委員ら38人が参加した。

県農業会議から農業委員会を巡る情勢についての報告や豊岡市・原農業委員の地域活性化の取り組み報告があったのち、女性委員を増やすには

をテーマに、ワークショップ形式で、それぞれの農業委員会活動の報告や課題について意見交換した。

女性委員になってよかったこととして「農政に意見が言える場ができた」、「遊休農地を意識するようになった」などの意見があり、今後、女性委員を増やす方法としては「委員である自分が楽しんでいれることをアピールする」

県農業会議農地委員会結果

県農業会議は2月5日、第35回農地委員会を神戸市の農業共済会館で開いた。

一 議 事

(1) 農地の転用のための許可について

農地法第4条に関する転用事案2件について審議し、神戸市と豊岡市の案件を許可相当とし、農業委員会会長あて回答することに決定した。

(2) 農地等の転用のための権利移動の許可について

農地法第5条に関する転用

事案4件について審議し、西宮市、神河町、洲本市、淡路市の案件を許可相当とし、農業委員会会長あて回答することに決定した。

二 協 議

(1) 当面の農政問題について

農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部を改正する法律案の概要及び平成31年度農地委員会開催予定日等について、事務局が説明した。



委員会活動について意見を交わす女性委員ら

「輝く女性になる」、「女性枠を確保する」などの意見が出た。

また、今回の交流研修会では昨年同様、参加者らが自慢の手料理を持ち寄り、大根餃

(別表) 第35回農地委員会・農地法第4条、第5条関係処理状況

区 分	農 地 区 分 別 処 理 件 数						処 理 積 面 (㎡)
	農 農 振 甲 種 第1種 第2種 第3種 合計	農 農 振 甲 種 第1種 第2種 第3種 合計					
第4条	1	0	0	1	0	2	18,409
第5条	1	0	1	2	0	4	39,089

農業会議日誌

2月1日～2月28日

子や黒豆おこわ、もち麦入りリンゴケーキ、玉ねぎのカツプケーキなどを試食しながら、打ち解けた情報交換となった。

農業振興に関する研修会出席 (神戸市)

15日 県民農林漁業祭実行委員会総会出席 (神戸市) ▽ 県・兵庫みどり公社・農業会議連携会議出席 (同市) ▽ 平成30年度第4回農の雇用事業説明会開催 (同市) ▽ 全国農業委員会職員協議会あり方検討会・理事会出席 (東京都)

1日 都道府県農業会議事務局長会議出席 (東京都) ▽ 近畿府県農業会議「農の雇用事業」担当者会議開催 (神戸市)

5日 第35回農地委員会開催 (神戸市) ▽ 正副会長会開催 (同市)

6日 農地中間管理事業推進会議出席 (同市)

7日 都道府県農業会議会長会議出席 (東京都) ▽ ひょうこの農とくらし研究発表大会・ひょうご農業女子交流会出席 (神戸市)

12日 第2回農地利用調整等推進会議開催 (神戸市) ▽ 開発審査会出席 (同市) ▽ 第14回ひょうご農業MBA塾開催 (同市) ▽ 人材投資事業 (準備型) 見直し説明会出席 (同市)

13日 農業団体会員参事・事務局長会議開催 (神戸市) ▽ 農業経営サポート事業ヒアリング出席 (京都府) ▽ 都市

18日 農業法人経営者との意見交換会出席 (加西市)

19日 西播地区農業委員会地区別交流研修会開催 (相生市)

20日 アグリフードEXPO大阪出席 (大阪府・21日まで) ▽ 西脇市農業委員会農業者年金制度研修会出席 (西脇市)

22日 地域農業後継者育成対策協議会会議出席 (神戸市)

24日 就農希望者向けセミナー・相談会開催 (神戸市)

25日 県稲作経営者会議通常総会・稲作経営者研究会出席 (神戸市) ▽ 県稲作経営者会議青年部総会出席 (同市)

26日 神戸・東播・中播地区農業委員会交流研修会開催 (加古川市)

28日 農業委員会女性委員交流研修会開催 (神戸市) ▽ 就農支援センター担当者会議開催 (同市)